

■薩摩川内市総合戦略検討委員会 第2回までの質疑・意見

1. 委員相互に共有しておくべき意見を抽出したものです。

項目	質疑・意見項目等	意見等の内容
1	人口減少について	一般的に人口減少が進む原因は、長期にわたる出生率の低迷に伴う少子化にあるが合計特殊出生率と未婚者割合、初婚年齢、給与、待機児童数、完全失業率、教育費などの関係を分析すると晩婚化、未婚化に加えて、雇用機会の喪失、高い教育費の負担が少子化と関わりがあることがわかる。よって地方からの人口流出の要因と同様、若者の安定した就業の場の増加が、出生率向上の点からも重要である。
1	人口減少について	若者の流出を抑えるためには、本市の魅力やふるさとを大切に思う心を幼い頃から教えること、また、郷土愛を育むイベントの実施などが必要だと思う。
1	人口推移資料について	人口動向から育英地区、平佐西地区、永利地区が増加している要因について共有しておきたい。 1 入居希望者の多い新しい設計の公営住宅、民間住宅が建設され快適な住環境にある。 2 市民病院、大型ショッピングセンターなどが近辺にあり、医療・福祉・商店が充実している。 3 学校への利便性がある。
1	人口推移資料について	人口動向から亀山地区、隈之城地区、高城地区が維持している要因について共有しておきたい。 1 大企業があり雇用増が定住化に連動している。 2 JR、新幹線、バス、自動車道などの交通の利便性がある。 3 学校への利便性がある。
1	人口減少について	現在住んでいる地域は、医療機関、小学校、支所などが比較的近く徒歩で行ける範囲内にあり地理的に恵まれているが、高齢化が進んでいる。これ以上、若い人が増える可能性は今のままではない。現在の小中高生が学業を終えて再びこの地に帰って生活できるようにしていけたらと思います。（農山村が荒廃しないうちに対策を）
1	人口減少について	東郷地域の人口推移の状況や意見 ①各地区ゴールド集落自治会の存続、地区コミュニティ協議会のあり方が問われる。 ②平成31年4月には、東郷地域小中一貫校、平成29年4月に小中一貫校の準備校として、5地区の小中学校が東郷小に統合する。この機会を地区及び地域にどう活かすか問われており、前向きに捉える必要がある。
1	人口推移資料について	本市における若者流出の原因と対応策（意見） ①若者が希望する職場・雇用がない ②若者にとって魅力ある町でない ③純心大学はあるが本市に希望する大学がない（大学設立は現状不可能）。 ④若者は大抵一度は都会に憧れて行くが、帰りたいと感じるとき、Uターンしたい若者の相談にのってくれる大きな組織・機構がない。あったとしても若者に十分知れ渡っていないのではないか。
1	人口推移資料について	出生率・数の低下は、全国共通する課題であり、結婚・子育てに対する若者の考え方の多様化、雇用・育児・生活の不安、私的欲望、経済的理由等があり国全体で考えなければならない課題である。対応策もそれぞれ国、自治体と分類されるため、本市の原因と対応策をまとめておく必要がある。
2	将来人口推計について	将来の人口目標設定イメージから、街の魅力作りに必要な要素は何かを十分検討する。観光（一時的）、定住促進、土地、魅力ある教育、・・・
2	将来人口推計について	地方創生の気運が高まる中、市民一人ひとりが「何かできる。何かやろう。」という気持ちを盛り上げていければと思う。
2	将来人口推計について	将来人口推計は、薩摩川内市が危機感を持って対策を講じるためには、減少幅の最も多いシミュレーション1（独自推計）を活用することが適当である。
2	将来人口推計について	なるべく早く高い目標に達してほしい。人口の流出を抑制するためには、一刻も早く適切な方策を実践して行かなければと思う。私たちの団体でも男女の出会いの場を設けたり安心して子育てできる環境づくりなど、ささやかな活動をしているが決定打は何か？（手さぐり状態です）
2	将来の人口推計について	意見 職がある・子育てできる環境・定住するという人口減少歯止めの極論に基づく、薩摩川内市が生きていく独自性ととも、地区・地域の特性を活かした自立が求められる。
2	将来人口推計について	目標設定に関して、日本、鹿児島県及び本市はどの位の人口がなければ日本、本県及び本市が存亡の危機に陥り国、県及び市そのものが消滅していくとの説明が必要ではないか。国においては、1億人程度の人口維持を掲げ、外交・安全保障に従事する自衛隊、海上保安庁の職員がいなくなり国防が危機的状況に陥るなどといったこと。
3	医療や福祉に関する問題など	全国的に介護施設の不足がある中で、薩摩川内市の魅力（海・山・温泉）等をさらにPRし、施設職員の人材育成を含む受け入れ態勢の整備を行っていけば、施設関連企業の進出に期待が見込まれ、充実した福祉の街と期待が持てる。
3	子育て支援への意見	子育て支援は、人口減少対策の必須条件である。育児支援の充実や育児に関わる教育施設等への支援等、薩摩川内市独自の子育て支援を充実させ「教育・子育て支援の街」と評されるような大きな支援が望まれる。
3	課題影響への意見	人口減少が急激であればあるほど例示されている様々な分野に悪い影響が出るのは容易に推測される。人口減少を緩やかにするための施策は単一ではありえない。多方面の総合的な施策を整理、創出し取り組む必要がある。
3	課題影響への意見	視点を高齢者に向けて施策を考えたらどうなるのか？ 今の考えは若年、壮年を中心にして人口減を優えているが、一部発生の転換が必要であると思うが。

■薩摩川内市総合戦略検討委員会 第2回までの質疑・意見

1. 委員相互に共有しておくべき意見を抽出したものです。

項目	質疑・意見項目等	意見等の内容
3	課題影響への意見	地域の人口減少により、自治体は税収減による財政制約に直面する。一方で今後は、公共施設・インフラの老朽化に伴う更新費用の増大が見込まれる。現在の公共施設・インフラをすべて更新していくことは、早晚、多くの地域で困難となると察する。また、高齢化に伴い、より住居から近い範囲に利便施設が位置することへの住民ニーズが高まることが予想される。こうした地域社会に想定される変化を踏まえ、自治体においては、コンパクトシティの形成と公有資産マネジメントの推進に取り組むことが求められるであろう。
3	課題影響への意見	人口減少により税収が減少し、財政的に厳しくなることから行政サービスとしてやってこれたことが従来とは違ってくるので、選択と集中の考え方が一層求められると思います。また民間の活力を高め、それを利用していくことが必要であると思います。
3	課題影響への意見	人口減少が学校の統合、閉鎖の原因となりうる。学校の存在は子育て環境の主要ファクターであり、出生数・出生率の低下を招かぬような対応が必要と考えます。
3	課題影響への意見	医療・介護の分野は在宅サービスに大きく変わりつつあるが、それを支える人材の確保が難しく人口減少地域にとって大きな課題となるのではないかと。
3	課題影響への意見	・地域産業と雇用問題 企業誘致も大事であるが、社会経済情勢に左右されない地場産業の育成による安定した雇用創出が大事である。
3	課題影響への意見	・子育て環境 教育のための都市部への移動がみらる。有名校への合格率の高い学校や塾が必要であると思う。特色ある大学、専門学校を作る。(純心大学の地域貢献度を増やす。学部学生募集内容の検討を依頼する。)
3	課題影響への意見	高齢者の増加は医療関係者の人手不足の要因である。
3	課題影響への意見	少子化が続くと、先生などの公務員の雇用も限られてくる。
3	課題影響への意見	地域産業の発展や雇用の増加は、若者や子育て世帯の増加が期待できる。税収も増え、地域活性化につながる。(起業支援、創業スキル養成講座等の開催、幼少期からのビジネス模擬経験)
3	課題影響への意見	人口減少に伴い医療機関の減少や医療の質の低下が考えられる。また、高齢者の増加により、社会保険料のアップも考えられ、予防の必要性を感じる。幼少期から健康に対する教育の充実が必要である。
3	課題影響への意見	十分な学習の機会、医療体制の充実、保育預かりサポート体制の充実を図ることで子育て世帯も増える。
3	課題影響への意見	地域活動の担い手が少なく、個人への負担が重くのしかかり、過疎地においては生活に希望が見い出せない可能性がある。荒地、空き家の増加、交通難民、買い物難民、地域の伝統、文化の伝承ができない。
3	課題影響への意見	若者の出会いの場が少なく、結婚支援が必要ではないか。
3	人口減少が生じた場合の悪影響	農畜産業・漁業・林業の一次産業の停滞・消滅への危機感がある。一次産業は専門性が求められるが後継者がいなくなる。食糧危機の恐れがある。
3	人口減少が生じた場合の悪影響	農業人口の激減は、多くの農地が耕作放棄地に河川・道路などの生活環境が悪化する。
3	人口減少が生じた場合の悪影響	医療・福祉の保険料・費用負担増への危機感がある。
3	人口減少が生じた場合の悪影響	子育て環境の悪化への危機感がある。結婚・出産・育児・医療・教育・保育園・幼稚園が維持できなくなる。
3	課題影響への意見	安心して子育て出来るよう環境づくりに元気な高齢者をまきこみ、うまく活用できないか
3	課題影響への意見	子供たちが、ふるさとに誇りを持てるような地域づくりで流出を防ぐことはできないか(歴史、史跡なども含めて)。
3	課題影響への意見	企業誘致、空き家対策など、考えられることはたくさんあるが、この市には何が最も適切なものか(原発なのか)
3	課題影響への意見	人口減による税収減で、今行われている行政サービスも受けられなくなるものが出てくるのではないかと。
3	課題影響への意見	雇用といってもなかなか安定した企業は見当たらない。IC関連企業は長期短期に関わらず突然引き上げる。 兼業農家が田畑を耕作し、投資による機械償却費を考えれば高い米を生産し消費しているのが現状である。しかし、農業は、地域の生活環境(地域荒廃や生態系を維持)を守り、災害から地域を守り(水田のダム役目)貢献している。だが、高齢化により兼業農家の跡取りが減少している課題がある。
3	課題影響への意見	地方は、住民が自ら課題をかかけ、地域が生き残る術を見出さなければならない。そのきっかけを行政が後押ししましょう。 地域には、他の地域にないものがいっぱいあるはずである。山の頂、里山、自然がもたらす地域の特性を今、見直すべきではないだろうか。この中から宝(物・人)を見つけ、地域独自の生き方を模索すべきだと考える。
3	課題影響への意見	箱モノを作って人を呼びこもうという時代は終わった。

■薩摩川内市総合戦略検討委員会 第2回までの質疑・意見

1. 委員相互に共有しておくべき意見を抽出したものです。

項目	質疑・意見項目等	意見等の内容
3	課題影響への意見	人材として高齢者を活かす。高齢者は限りない知恵袋。高齢者（幸鈴者）を頼ることで生きがいにもなる。
3	課題影響への意見	昔の人は、山とともに生活圏が存在していた。日本において木は唯一豊富な資源である。木を活用した産業（建築、次世代エネルギーなど）を里山からもたらされるといってもよい。この里山は、若者の雇用、自然環境の再生であり、私自身、里山は無限の力を秘めた宝の山と信じている。
3	課題影響への意見	子育て環境に関する意見 徳之島は出生率が高い地域であるが、サトウキビ生産が主要作物で、所得が決して高いとは言えないと思う。背景にあるのは地区地域の子どものこととして住民が意識することなく当然のように我が子・孫のように見守り、子育てに一役かっていることではないか。母親は安心して子どもを育てることができる。離島だからできる本土だからできないということではない。いま、コミュニティスクール制導入により、学校・保護者・地域が一体となって、子供たちのことを考え、元気に育てる環境づくりで、地域とともに歩む姿が自然であると思う。地域が見守りの中で、高齢者（幸鈴者）も生きがいを見つけ、昔の親子三世代同居も夢ではない。大きな学校の近くに無理して住居を新築する必要はないのでは？
3	課題影響への意見	学校再編に取り組んでいる中でスクールバスの運行がある。中央に学校ができて、建物（学校）を中央（核）とした衛星学園都市構想を描き、その圏内では全てが定住可能となり、子育て支援に大いに期待できる。
3	課題影響への意見	夫婦共稼ぎの世代の中で、法も環境整備で後押ししているが、現実的に地方の企業の中で父親が育児休暇等取れる状態ではないと考える。社会全体で考えることであろうが、薩摩川内市ではどうなのか
3	課題影響への意見	本設問に関しては、各地方自治体の抱える問題点でもあり突き詰めていけば国が抱える大きな問題点でもある。まずは政府・霞ヶ関が人口減少が及ぼす影響を発信しなければならないテーマで発信されたテーマは国・地方自治体に共通するものである。本市に限定した影響と考えても結局は国家レベルと同じ問題点であるため、国家レベルで各委員から提言をもらうのが良いのではないかと。
3	課題影響への意見	人口減少の要因としては、出産・育児が仕事に差し支えるといった労働環境の問題。育児の配偶者協力、保育園などの子育て支援体制が不十分などの理由があげられる。 また、国は「東京一極集中の是正」を掲げており ①県外からの移住促進 ②20歳代、30歳代の未婚率減少を掲げ男女の出会いの場づくり ③不妊治療への支援 ④子育てしやすい環境の整備 ⑤役所の縦割り行政を解消して保育園と幼稚園を合併し、こども園の設立 ⑥雇用の確保 ⑦住みよい魅力ある街づくり ⑧非正規労働者の処理改善や正社員への配置転換を支援し若者雇用の安定を図る ⑨保育・教育費の負担軽減、住宅確保 等の施策も必要になってくるといわれている。国がやる施策、各地方自治体ができる施策とそれぞれ区分けし、本市ができる施策を例示し、これを各委員と議論する必要がある。
4	自由意見	原発については、薩摩川内市にとって大きなテーマで避けては通れない。今後の課題も多くあると思うが、可能であれば原子力に関連した企業や研究施設、医療関連施設等「エネルギーの街」と称されるような施設を官民一体となって立ち上げることはできないか。
4	自由意見	雇用という観点からすれば、ベッドタウンという考え方がいいのかどうかは判断の分かれるところだと思いますが、広く人口減少対策という点では、新幹線通勤等による居住者を増やす取り組みの強化を図るべきであると思います。参考資料1にある定住促進補助金や中学生以下の医療費補助等住むのに優しい施策や環境をもっと広く宣伝した方がいいと思います。また、子育て支援の拡充が必要かと思います。
4	自由意見	薩摩川内市は、天然の資源（温泉・甌島等）、人工の資源（新幹線・高速道路・港等）の両方に恵まれており、取り組み次第では今後も発展していく可能性のあるところだと思います。
4	自由意見	奨学金被害の現状について聞いたことがあるが、学費の高騰や家計収入の減少により奨学金頼り、結果として非正規雇用やリストラなどで返済が困難になっている現実がある。地元での雇用確保と合わせ定住を促進するためにも免除を含む対応が検討できないだろうか。
4	自由意見	高齢になると交通の便が良く、買い物ができ、病院が近くにある、国土交通省のコンパクトシティが理想である。川内駅周辺のゾーンと富士通跡地を活用したゾーンを作り、本市の活性化を望む。
4	自由意見	オレンジ鉄道、薩摩川内市の企業連携、大学、職業訓練校等とのコラボ事業の推進
4	自由意見	第1、2次薩摩川内市総合計画における都市機能の分担として、都市文化ゾーンへの住宅、学校、病院、福祉、保育園、幼稚園の集中化だけでなく、田園文化ゾーン、海洋文化ゾーン、それぞれの地点に拠点スモールタウンを形成して施設を集中化する必要がある。これで1次産業の維持・発展につながり雇用・定住が図れる。
4	自由意見	南九州西回り自動車道のインター3箇所の活用による定住・物流・観光事業の具体的方策を早急に策定する必要がある。
4	自由意見	人口増のためには、雇用・住環境の確保と結婚・出産・育児・医療・教育の環境整備、出産・子育て関連費用の完全無償化を図る。
4	自由意見	甌島の交通格差・医療格差・文化格差・教育格差の是正のために全てに係る交通費の公的負担割合の大幅引上げにより、海を抱える島嶼部特有の課題を解決し定住増を図る。

■薩摩川内市総合戦略検討委員会 第2回までの質疑・意見

1. 委員相互に共有しておくべき意見を抽出したものです。

項目	質疑・意見項目等	意見等の内容
4	自由意見	人口減少地区では、デマンド交通の対象地域拡大による交通格差の是正と移動販売者の対象地域拡大による買い物環境の利便性を図る。
4	自由意見	長期ビジョンはすばらしいと思います。豊かな自然を活かしたまちづくりを広い範囲で考えていけたら良いと思う。 農山村と商店街と観光地（観光資源）とを、うまく連携させて、単独ではなく線でつながり広い範囲に人を呼びこむ態勢を作り、色々な職種、異なる年齢の人々が一つの目的のために活動できるように出来ないものでしょうか。 持続性のある組織づくりが大切ではないかと思う。トップが変わっても住民自身が自発的に行動できるようになることが大切ではないかと思う。 住民みんなが目指すべき方向を共有し、無理なく出来ることを実行してゆけるようすることが大事だと思う。
4	自由意見 甌島について	甌島は離島のハンデを逆発想で活かすべきである。 ①周りを海に囲まれ、島全体で人を活かす、物を活かす、例として空き家を活かす、自生している鹿の子ユリ、芙蓉を活かす、自然のままの姿を維持することが重要で、人・もの・食の機会を見つけだす。 ②芙蓉を全島に植栽する。 ③甌島を充電の里としてPRする。～空き家を改装し、一時滞在型ホーム、あるいは富裕層に別荘として売る・又は貸す（管理の手間がでてくる＝人手がいる）。滞在方の方には、その間自治会に加入してもらい、奉仕作業などへの参加で都会では味わえない新鮮なものに心が動かされると思う。
4	自由意見 甌島について	④蘭牟田瀬戸架橋を境に2コース（上・下）のウォーキングロードを設定し、島に滞在されている方は自然に親しみながら明日への活力を充電してもらおう。観光客には歩きながら島の観光を満喫してもらい2泊くらいの旅行商品が作れたらと思う。 ⑤ウォーキングロードには前線道端に芙蓉を植栽し、看板も設置する。上甌島には遠目木山という格好の山もあり、山登りしながらの景色はすばらしいものとする。 ⑥魚釣り場もたくさんあり、時期によっては魚釣りの講習会、魚釣り大会等行う。 ⑦島全体でソフト面の強化、ヨガを普及したらどうだろうか、老若男女こそって時間をある程度設定し、あちこちで数人単位で行えば面白い効果が出てきそうな気がする。 「～甌島～ヨガ（余暇）で楽しく、見て・聞いて、共に過ごし。自然を己のものにし、希望の道を醸成する芙蓉と鹿の子ゆり、充電の里～」
4	自由意見	本市の器・容量を総合的に勘案し本市でできる可能性のあるものを設定する必要がある、また、事務局及び各委員になるべく過大な負担がかからないような形で目標を絞り込み定める必要がある。